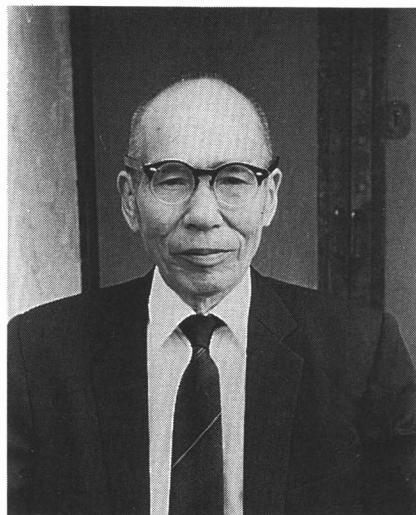


父は、保之助が教師として東京に住んでいた大正三年に稻田村に、分家として出しましたが、保之助はつぎの年に、石川郡泉村（玉川村）の首藤カクと結婚し、「首藤保之助」と名前を変えました。



首 藤 保之助

保之助は学生時代から考古学にきょうみをもつていましたが、とくにそのころから、古い土器や石器を集めるのにむ中になりました。熱心さのあまり、食べるのも食べず収入のほとんどを、それにつぎこんだため、食事といえばどうふやおからだけというありさまでした。せんかんからは、かわり者と言われ、つき合う人も、あまりいなくなくなりました。カクの両親は、娘がないへんな人と結婚してしまつたとなげいたそうです。